

特集

新しい発想で安全を提供する データの分散管理サービス

データ潮流

NRIオリジナル調査データから
世の中の動きをとらえます。

■ 2011年、企業のWebサイト
セキュリティ診断状況

著者のこころ

NRIの著者にインタビュー。書籍執筆にまつわる、
ちょっとした想いを伝えます。

■ 技術を可視化することで
コミュニケーションを促進

『その“技術開発”本当にそのまま続けますか?』
著者 中居 隆

NRIからのお知らせ

新刊

■ ITナビゲーター2012年版
今後5年の市場トレンドを予測

■ ITロードマップ2012年版
2016年までのIT予想図を提示

予測

■ スマートデバイスとソーシャル
メディアの融合による
顧客サービス進化
2016年度までを予測するロードマップ

セキュリティ管理に煩わされることなく、職場や家、あるいは海外で
必要なデータをいつでも利用でき、万が一の事態にはバックアップも万全。
クラウド時代にはこのようなデータ管理環境が求められています。それを
実現したのがNRIセキュアテクノロジーズの「SecureCube / Secret Share」。
開発にかかわった佐藤敦が、このソリューションの意義を語ります。

一つの情報ファイルを、複数
の意味をなさないファイルに分
割して複数のデータセンターに
ばらばらに預け、元の情報ファイ
ルが必要になったら、各データ
センターからファイルを集めて復
元します。これが「SecureCube
/ Secret Share」（セキュア
キューブ・シークレットシェア）の
仕組みです。しかも特殊な技術
を用いているため、万が一、分
割されたファイルの一つがなく
なった場合でも、残りのファイ
ルから復元できます。

手元のパソコンに、ファイ
ルの情報は少しもありません。パ
ソコンモニターにはファイルのア
イコンが表示されており、それ
が情報にアクセスする入口とし
て機能します。

しかし、自分の情報ファイル
が複数のデータセンターに保



佐藤 敦 さとう・あつし

NRIセキュアテクノロジーズ イノベーション
事業本部長。これまで大手メーカーに
て、飛行体のフィジカルシミュレータ
の仕組みづくり、人工衛星内で行われ
る実験データの解析、パケット交換網の制
御システム開発などに携わった経験を持
つ。防衛、宇宙、情報通信の分野を専門
とする。

管されているなど、利用者が
意識することはありません。見
た目も操作もこれまでのパソ
コン画面と変わりません。その
ため「SecureCube / Secret
Share」は誰でもスムーズに利
用できるサービスです。



国内外のリスク対策も支援

個人情報の漏洩は、ノートパソコンの紛失、置き忘れなどから起きている例が多いことが、NRIセキュアテクノロジーズの調査でわかっています。特に金融業界では、持ち歩いていた情報を紛失した場合、会社の損失は大きく、個人にも重い責任がかかってきます。こうした事態を避けたいという思いからこのサービスの開発が始まりました。

さらに「SecureCube / Secret Share」なら、複数のデータセンターを利用しているからこそ、災害をはじめとするさまざまなリスク対策、バックアップ対策にも有用です。2011年11月には日本マイクロソフトと協業して、世界各地のデータセンターにデータを分散保管させるサー

ビスも開始しました。こうしたソリューションが今後貢献できることはいろいろあると思っています。

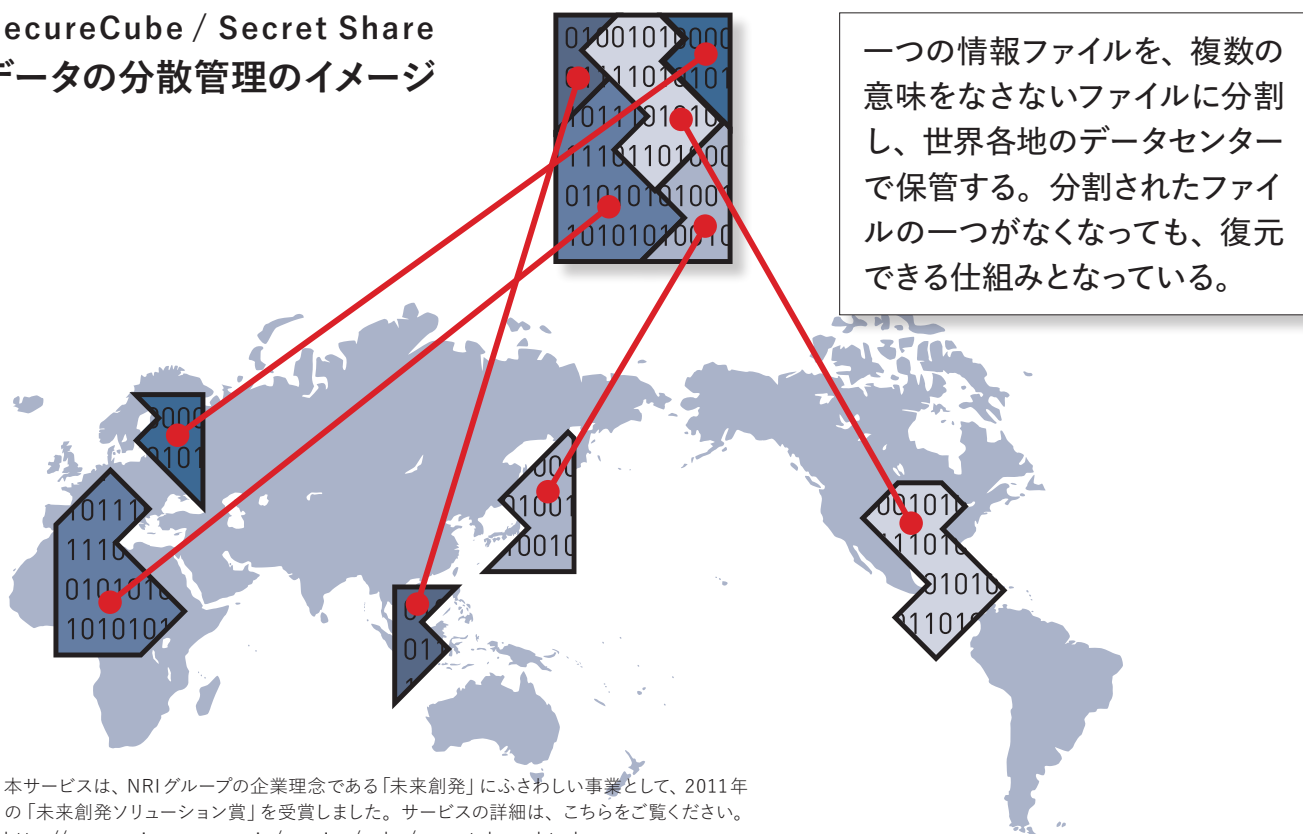
海外事業の展開と 国内産業の育成に貢献

たとえば、日本企業が海外で事業を展開するとき、現地で情報をどのように管理するかは大きな課題となります。海外では、国内と同等の人員・コストをかけたセキュリティ対策は難しいのが現状でしょう。電力や通信の不安、政情不安、災害、データセンターの差し押さえといったカントリーリスクへの対応も必要です。「SecureCube / Secret Share」なら、こうした問題をすべて解決できます。日

本企業の海外展開を、安全なデータ管理環境の提供を通じて支えることができます。

もう一つ、国内において、コストや人手をかけられない、中小企業や個人事業者のセキュリティ対策を支援できると考えています。現在、全国の商工会議所を回りながら、各地のITサービス提供者を通じて、われわれのサービスをエンドユーザーに届ける仕組み作りをしています。地域の方々と協力しながら小規模事業者のセキュリティ対策を確実にすることで、地域産業の活性化にもつながります。われわれの安全なデータ管理サービスの提供によって、国内産業の支援にも貢献したいと思っています。

SecureCube / Secret Share データの分散管理のイメージ



一つの情報ファイルを、複数の意味をなさないファイルに分割し、世界各地のデータセンターで保管する。分割されたファイルの一つがなくなっても、復元できる仕組みとなっている。

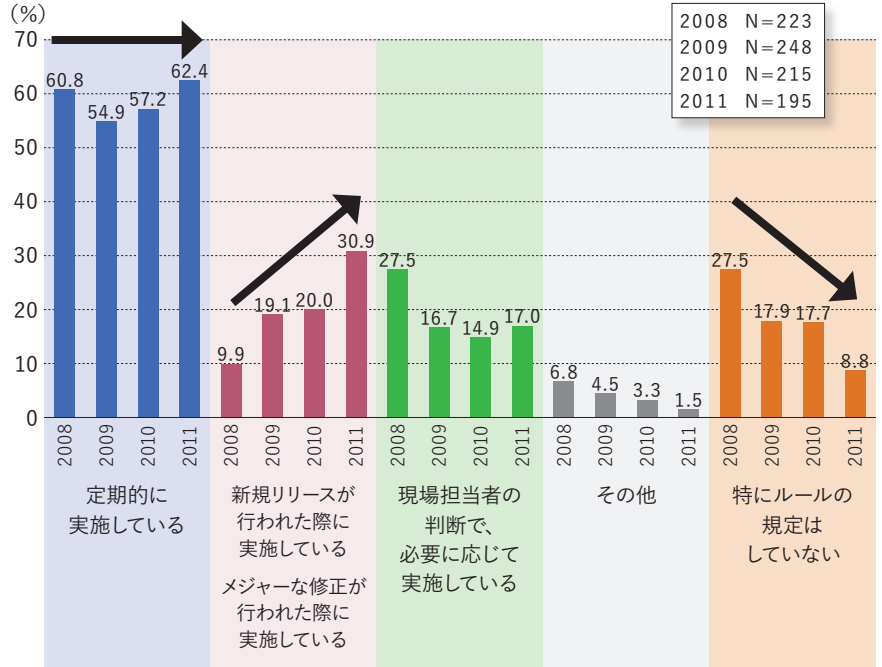
※ 本サービスは、NRIグループの企業理念である「未来創発」にふさわしい事業として、2011年の「未来創発ソリューション賞」を受賞しました。サービスの詳細は、こちらをご覧ください。
<http://www.nri-secure.co.jp/service/cube/secretshare.html>

2011年、企業のWebサイトセキュリティ診断状況

毎年、企業の情報セキュリティの実態を調査しているNRIセキュアテクノロジーズが、2011年も上場企業を中心とした3,000社を対象に調査を実施しました。Webサイトのセキュリティ診断の実施状況について調べたところ、診断を実施している企業は全体の約3割であり、2008年以降、大きな変化はありませんでした。このうち約6割の企業は定期的に診断を実施しており、実施頻度は年々上がっています。また、診断を受けている企業のうち、新規リリースなどが行われたときに診断を実施する企業は増加傾向にありました。診断を受けてい

る企業はセキュリティに対する意識が年々高まっている傾向があり、診断を受けていない企業との意識の差が広がりそうです。

Webサイトのセキュリティ診断状況



著者のところ



日刊工業新聞社

著者の一人である中居は、知的財産に関する調査や、特許情報ならびに論文データを可視化するツール「TRUE TELLER パテントポートフォリオ」の企画にもかかわっています。さまざまな特許データをマクロに見ることで新しい発見が得られることを実感した経験や、共著者である池澤

その“技術開発”本当にそのまま続けますか？

「技術を可視化することでコミュニケーションを促進」

著者 中居 隆

直樹との社内ディスカッションを通じて、本書は誕生しました。「技術開発にかかわるさまざまな関係者の、コミュニケーション促進が主眼でした」と中居は話します。異なった専門性を持つ複数の人々が事業を進めていく場では、関連する技術の動向や特徴などの専門的な内容を、誰に対してもわかりやすく伝えていく必要があります。本書では、可視化のための5つの方法

を解説。「これらを実践すると、ある技術が、実は思わぬ分野で使えることなどに気づきます。アイデア抽出にもぜひ本書を活用してもらいたいと思います」。



なかい・たかし NRIサイバーパテント 知的財産コンサルティング事業部長。
本書は2011年12月発行。定価は2,000円＋税

新刊

ITナビゲーター2012年版

今後5年の市場トレンドを予測

NRIのICT・メディア産業を担当するコンサルタントたちが、毎年発表しているIT市場予測。市場をいくつかのセグメントに分けて分析し、2012年以降の構造変化を予測しています。2012年版では、今年も注目を集める放送と通信の融合について、放送側での動きを重点的に取り上げています。業界関係者や企画・戦略立案に携わる方に、ぜひ一読いただきたい一冊です。



発行：東洋経済新報社
定価：2,200円+税

ITロードマップ2012年版

2016年までのIT予想図を提示

進展が著しいITの動向を、技術の視点で分析・予測しているNRIのITアナリストたちが執筆。毎年発行し、本冊で7冊目となります。今後の5年間に起こる変化や、ITを複合的に用いることで生まれる新サービスの可能性を紹介しています。また、ITキーワードについての調査結果も発表しています。ITをビジネスに活用する企業の経営者、そしてITの開発や運用に携わる方々へのナビゲーションとなるよう、まとめています。



発行：東洋経済新報社
定価：2,200円+税

予測

スマートデバイスとソーシャルメディアの融合による顧客サービス進化

2016年度までを予測するロードマップ

ますます普及が進む、スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイス。2015年には普及期に入るとNRIは予想しています。これらの端末がもたらす多様なデータが、今後はソーシャルネットワーク上で共有・蓄積され、活用される時代とな

ります。NRIは、企業の顧客接点（チャンネル）におけるスマートデバイスとソーシャルメディアの融合と活用が、2016年度までに以下のように展開していくと考えています。

詳細はこちら

<http://www.nri.co.jp/news/2011/111118.html>

		～2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度～
デバイス・ソーシャルメディアの発展	スマートデバイス黎明期	スマートデバイス黎明期			スマートデバイス発展期		スマートデバイス普及期	
	Twitterの普及	日本におけるFacebook発展期 ▲Facebookユーザー数8億人突破			ソーシャルメディア普及期 ソーシャルメディアがWebのフロントへ			
企業によるスマートデバイスとソーシャルメディアの活用	端末および関連サービスの機能の進化	モバイルブロードバンド高速化 LTE(37.5Mbps～)			WiMAX2(165Mbps)		モバイルブロードバンド高速化とセンシングデータの拡大	
		▲NTTDoCoMoXi開始			△au LTEサービス開始			
		WiMAX(40Mbps)			WiMAX2(165Mbps)			
		▲WiMAX搭載スマートフォン △WiMAX搭載タブレット						
	センサー機器			センシング情報の拡大		ビッグデータ分析		
	カメラ・タッチセンサー・加速度センサー			位置情報データ活用・共有の本格化 M2Mなどモノが発信する情報		端末のコンシェルジュ化		
	△Apple Siri(英) △Apple Siri(日)			デバイス×インテリジェンス				
	ソーシャルメディア連携			企業のソーシャルネットワーク活用		ソーシャルネットワークを介した企業から生活者へのサービス提供		
	スマートフォン向け専用クライアント			▲auとFacebook提携 △TOYOTA friend				
	▲ドコモTwitter提携			単独企業によるSNS活用		複数企業連合によるSNS活用		
	位置情報サービス黎明期			マルチメディアキオスクや自動販売機のソーシャル連動		インテリジェンスによる支援		
	チェックインクーポンによる店舗への誘導			店舗内誘導				
	Twitterなどの口コミ分析			ソーシャルメディア上のプロフィールの収集・分析		データマイニングの適用		
企業へのインパクト	スマートデバイスからの生活者データの収集・サービスへの誘導			ソーシャルネットワークを介したサービス提供・顧客理解の深化		ビッグデータ分析・ソーシャルインテリジェンスによるコンシェルジュサービス		